

奨励賞

大企業区分

全星薬品工業株式会社

※事業者の情報は応募時点(2018年)

所在地	大阪府大阪市阿倍野区旭町1丁目2番7号 あべのメディックス13階
業種	製造業
社員数	613名(連結)
受賞歴	なし
ウェブサイト	http://www.zenseiyakuhin.co.jp/

全従業員参画型の環境活動を目指した取組

取組の目的

2013年4月厚生労働省医政局経済課からロードマップ発出を契機に生産量が急激に増加し、それに伴い安定供給を堅持すべく一昨年、新工場を竣工しました。二工場体制をとることによって一時的に効率が低下し、環境負荷の排出が増加しました。この状況を打破すべく「環境」と「経営」を融合し、環境活動への興味を向上させ「全従業員参画型」の環境活動を目指します。

取組の実績

① EA21 新人・管理職研修

新ガイドラインに基づく、EA21の環境経営システムの説明や目標の共有、環境活動の取組紹介、環境と業務の改善の関連性について全従業員が共有するため定期的に教育活動を行っています。毎年4月に新入社員、6月に管理職員、10月に中途採用社員の研修を実施し、6月の管理職員の研修後、研修を受けた管理職員が課員に教育をする体制をとっています。

② エコニュース

従者員の環境意識の向上や現在の環境活動の周知のために、2012年から従業員の「普段から行っている環境活動」をとりまとめた社内報を四半期に一度、イベントがある場合はその都度に特別号や号外を発刊して



エコニュースの例

います。毎号違う作成者を数名選出し、環境活動のほかに作成者の「趣味」「特技」「座右の銘」などを記載して、交流のツールとしても活用しています。このエコニュースは、すべての事業所(本社・岸和田工場・和泉工場)で食堂や休憩所など全従業員の目にとまる場所に掲示しています。

③ 環境活動と業務の PDCA サイクル

仕事の作業効率を上げることで「無駄な時間・無駄な費用・無駄な資源」を省くことができ、率いでは省エネ・環境活動となることを周知するため、2017 年から開始した新しい取組です。

業務課題を取りまとめて PDCA を回せる資料を部ごとに考案・作成しました。これにより業務と環境との関係性を理解し、環境活動の意識付けすることができました。

④ 環境啓発作品(環境標語・エコポスター・エコキャラクター)の募集と掲示

環境について興味をもってもらい、その作品を食堂や会議室に掲示することによって環境啓発につなげています。

今年は第三回 環境啓発作品の募集を行い、全 359 件の応募がありました。

従業員だけでなく家族の方にも参加してもらい、従業員と家族が環境について考える機会につながったと感じます。



エコキャラクター
第 3 回最優秀作品

⑤ エコキャップ運動

リサイクルや分別の意識付けとして、2017 年「EA21 認証登録 10 年記念イベント」の一案でチーム対抗のキャップ収集対決を開催しました。おおいに盛り上がり、イベント終了後もキャップを分別する習慣がつかえました。送付先の協会はリサイクル業者にキャップを販売し、収益金の一部を医療支援団体やキャップの選別を行う障害者団体へ寄付されます。

1 年で約 124,700 個(イベントを含めた総数)のキャップを収集することができました。

成果・課題

全従業員参画の環境活動を目指していますが、当初は従業員のすべてが環境活動に前向きという訳ではありませんでした。それは環境活動が経営活動を抑制させるものだと考える人が少なからずいたからだと考えています。ですが、現在ではエコニュースによる各社員達の地道な環境活動報告や環境に意識を向けさせる環境啓発作品の募集、エコキャップ運動などをきっかけにした環境活動を充実させたことによって少しずつですが着実に、興味を持ってもらい、現在の環境における知識等を教育・共有した事で実業務と環境活動の関連性を周知したことにより、「現在の環境活動の傾向は“持続可能な”かつ積極的な参画とした取組みとなった」という意識が全従業員へ浸透しつつあります。

また、このような全社的な環境活動への取組みは、全ての部署が関係性をもって協力したことに

「環境 人づくり企業大賞 2018」受賞企業の取組事例

より、組織の活性化にもつながりました。

今後も更に、環境活動へ意識を向けた教育・知識の共有を行い、すべての従業員が自発的に取り組める活動を推進して行きたいと考えています。

今後の改善

- ・ 全従業員の環境活動の参画を目指し、さらに業務との関連性を結びつけるため環境負荷のコストの見える化を図る。
- ・ 環境活動を各部との交流ツールとして活用する。

関連・補足情報

2017 年度 環境経営レポート

<http://ea21.jp/list/pdfn/0001846.pdf>

審査委員会からの講評

工場の新規竣工により、環境負荷が高まったことから新たな取り組みとして全従業員参画型の「環境」と「経営」を融合した活動を進めている。環境経営レポートでは具体的な取り組みとしていくつかあるが、とても分かりやすく、従業員のみなさんが随所に掲載されている。年度報告書なので固い印象になりやすい傾向にあると考えられる、とても親しみを感じやすい。よって、多くの社員を巻き込むことは環境に対する取り組みを自分事としてとらえられ、環境意識の向上につながっていると考えられる。

また、各活動においても地道な取り組みを継続的に実施しているが、その中でも各社員が意識している環境活動、つまり特別な取り組みを行わなくても日々の社員が行っている環境活動にスポットを当てたエコニュースは評価できる。これにより身近な人が身近な取り組みを行っていることにも気づききっかけになり、他の社員への波及効果もある。

今後、各活動について PDCA を意識していただき、ブラッシュアップしつつ、工場を取り巻く地域との関わりをより進めていくことで、新しい視点が入り地域に根ざした工場になることを期待したい。